

Symantec NetBackup™ リリースノート

リリース 7.6.0.2

メンテナンスリリース

マニュアルバージョン 2

Symantec NetBackup™ リリースノート

マニュアルバージョン: 7.6.0.2

法的通知と登録商標

Copyright © 2014 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、Backup Exec、Bare Metal Restore、Enterprise Vault、LiveUpdate、Veritas、および Veritas Storage Foundation は Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のまま提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

目次

第 1 章	NetBackup 7.6.0.2 について	5
	NetBackup 7.6.0.2 のリリースについて	5
	NetBackup の最新情報について	6
	NetBackup サードパーティの法的通知について	6
第 2 章	新機能および拡張機能	8
	NetBackup の新しい拡張と変更について	8
	NetBackup 7.6.0.2 の新機能、改善および変更	8
	NetBackup および NetBackup アプライアンスに対する OpenSSL "Heartbleed" 脆弱性	9
	Amazon Simple Storage Service (S3) のリージョンサポートについ て	10
	新しい nbdevconfig コマンドオプション(-config)	11
	OpsCenter スケジュールが設定されたレポートの設定によるレポート 生成の高速化	11
	代替の場所への復元する新しいメディアサーバーオプション	13
第 3 章	操作上の注意事項	14
	NetBackup 7.6.0.2 の操作上の注意事項について	14
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	15
	AIX に必要な追加手順	15
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	15
	自動バックアップに関するバックアップスクリプトのパスフィールドは選 択できません	16
	NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	16
	EFI ブートシステムで Windows クライアントを復元した後に追加の手 順が必要になる	17
	NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意 事項	17
	NetBackup for Oracle の操作上の注意事項	17
	NetBackup のマニュアルについての注意事項	19
	『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の注意事項	19
	『Symantec NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガ イド』の注意事項	20

	『NetBackup for VMware 管理者ガイド』の注意事項	20
	『NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド』の注意事項	20
	NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項	21
	Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題	21
	NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項	22
	NetApp Plug-in for Symantec NetBackup の操作上の注意事 項	22
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	23
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	23
	NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項	26
付録 A	NetBackup のリリース内容	27
	NetBackup のリリース内容について	27
付録 B	NetBackup のインストール要件	28
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	28
付録 C	NetBackup の互換性の要件	36
	NetBackup のリリース形式とバージョン番号について	36
	NetBackup のバージョン間の互換性について	37
	NetBackup の互換性リストと情報について	39
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	41
付録 D	NetBackup ユーザーの SORT について	43
	Symantec Operations Readiness Tools について	43
	SORT の新規インストールのための推奨手順	44
	SORT のアップグレードのための推奨手順	48
付録 E	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニユ アル	51
	NetBackup の関連マニュアルについて	51
	NetBackup リリースノートについて	52
	NetBackup 管理者ガイドについて	52
	NetBackup オプションの管理について	52
	NetBackup データベースエージェントの管理について	54
	NetBackup のインストールマニュアルについて	56
	NetBackup の構成マニュアルについて	56
	NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて	56
	その他の NetBackup のマニュアルについて	56

NetBackup 7.6.0.2 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.6.0.2 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 7.6.0.2 のリリースについて

Symantec社は、NetBackup 7.6.0.2 のリリースを発表いたします。このメンテナンスリリースは、以前のバージョンの NetBackup とその関連オプションに影響を与えていた既知の問題の多くを解決します。さらに、このリリースでは NetBackup 7.6 に対する複数の拡張機能が導入されており、これにより物理環境と仮想化環境のミッションクリティカルなデータとアプリケーションを保護する機能が改善および拡張されます。

メモ: NetBackup 7.5.0.6 および 7.5.0.7 で導入された一部の機能はバージョン 7.6 にはありません。その機能は NetBackup 7.6.0.2 以降ではリストアされ、NetBackup 7.5 ラインのすべてのリリースとの完全なアップグレードパリティを提供します。NetBackup 7.6 を実行中の場合、Symantec社は、NetBackup 7.6.0.2 にアップグレードして最新の機能と製品修正が含まれた状態にすることをお勧めします。この問題の背景情報については、Symantec社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH210461>

p.8 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 7.6.0.2 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 7.6.0.2 で修正された既知の問題を文書化した EEB および Etrack のリストは、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.43 の「Symantec Operations Readiness Tools について」を参照してください。

p.27 の「NetBackup のリリース内容について」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 2.6 は NetBackup 7.6 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH74904>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

go.symantec.com/nb

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、Symantec による所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープン

ソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/>

新機能および拡張機能

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 7.6.0.2 の新機能、改善および変更](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup の互換性リスト](#) に文書化されます。

メモ:『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、[Symantec](#) によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup の互換性リスト](#) を参照する必要があります。

p.5 の「[NetBackup 7.6.0.2 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.39 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 7.6.0.2 の新機能、改善および変更

次の一覧には [NetBackup](#) バージョン 7.6.0.2 からの新しい機能、改善および変更が一部記載されています。

- [NetBackup](#) および [NetBackup](#) アプライアンスに対する OpenSSL "Heartbleed" 脆弱性の修正

- Amazon Simple Storage Service (S3) の地域サポート
- NetBackup OpsCenter スケジュールレポートの新しい構成オプション
- バックアップ、アーカイブおよびリストアの各ダイアログでリストア中にメディアサーバーを選択できる新しいオプション
- ファイルレベルでの Granular Recovery Technology (GRT) および vhdX 仮想ハードディスク形式のサポートを含み、Hyper-V Server 2012 R2 に対応
- VMware VDDK 5.5 (vSphere 5.5 と vCloud Director 5.5 を含む) に対応
 p.23 の「[NetBackup for VMware の操作上の注意事項](#)」を参照してください。
- Oracle 12c に対応
 p.17 の「[NetBackup for Oracle の操作上の注意事項](#)」を参照してください。
- NetBackup Fibre Transport (FT) メディアサーバーが SLES 11 SP3 に対応
- Bare Metal Restore (BMR) が次のプラットフォームに対応:
 - Windows 8/Server 2012 ブートサーバーとクライアント
 - Solaris 11.1 ブートサーバーとクライアント
 - SUSE 11 SP2 ブートサーバーとクライアント
 - SUSE 11 SP3 ブートサーバーとクライアント
 - Xen 仮想環境の Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6
 - Oracle VM で xvda ディスク形式 Oracle Enterprise Linux

NetBackup および NetBackup アプライアンスに対する OpenSSL "Heartbleed" 脆弱性

NetBackup および NetBackup アプライアンスは CVE-2014-0160 脆弱性 (通称 "Heartbleed" セキュリティバグ) を含む OpenSSL 暗号化ライブラリを使用します。NetBackup では遠隔測定と NetBackup の VMware vCenter プラグイン (vCenter プラグイン) にのみ脆弱性が影響しています。Symantec は NetBackup 7.6.0.2 および NetBackup アプライアンス 2.6.0.2 でこの脆弱性を修正しました。

vCenter プラグインを使用している場合、NetBackup 7.6.0.2 以降にアップグレードした後に Symantec は次の予防措置を行うことを推奨します。

- vCenter プラグインの仮想アプライアンスで
 - 1 仮想アプライアンスのローカルアカウントパスワードを変更します。
 - 2 SSH デーモン (sshd) を明示的に有効にした場合、新しいキーペアを再生成します。

- また、仮想アプライアンスを再インストールして NetBackup のマスターサーバートークンを再度アップロードできます。

この問題の最新情報と NetBackup の環境に対する影響については、Symantec のサポート Web サイトで Tech Note を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH216555>

Amazon Simple Storage Service (S3) のリージョンサポートについて

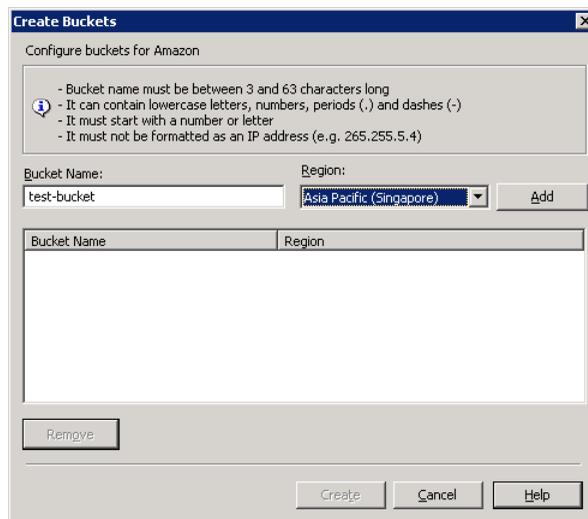
NetBackup 7.6 は、7.6.0.2 リリースからそのリージョンのすべてで Amazon クラウドストレージをサポートします。デフォルトでは、NetBackup は、Amazon クラウドストレージに米国標準リージョンを利用します。

米国標準リージョン以外の Amazon リージョンのサポートには、次のリリースレベルが必要です。

- NetBackup 7.5 メディアサーバーは NetBackup 7.5.0.6 以降を実行する必要があります。
- NetBackup 7.6 メディアサーバーは NetBackup 7.6.0.2 以降を実行する必要があります。

Amazon 対応の NetBackup ディスクプールを設定する場合、Amazon ストレージバケットを作成するリージョンを選択できます。[ディスクプールの構成ウィザード (Disk Pool Configuration Wizard)]の[ボリュームの選択 (Select Volumes)]パネルの[追加 (Add)]ボタンをクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。

図 2-1 [Amazon のバケットの設定 (Configure buckets for Amazon)]ダイアログボックス



NetBackup はバックアップをそのリージョンのクラウドに書き込みます。米国におけるメインの Amazon Web Service ホストを介したトラフィックのルーティングは実行しません。米国標準以外の地域でのバケット名に関する要件を以下に示します。

- バケット名は 3 文字以上、63 文字以下にする必要があります。
- バケット名は、1 つ以上の一連のラベルである必要があります。ラベルには小文字、数字、ダッシュを使うことができます。各ラベルの先頭と最後は小文字または数字である必要があります。単一ピリオド (.) を使って、たとえば、gold.backups.bucket1 のように隣接するラベルを区切ります。
- バケット名は、IP アドレスのような形式にしないでください。

新しい nbdevconfig コマンドオプション (-config)

7.6.0.2 リリースより、nbdevconfig コマンドには、バケットを作成するときに米国標準以外のリージョンを指定するための新しいオプション (-config) が含まれています。-createdv オプションでこのオプションを使って Amazon バケットを作成します。オプションの形式と説明を次に示します。

```
-config region:region-url
```

region-url は次のいずれかである必要があります。

ap-northeast-1	アジア太平洋 (東京)
ap-southeast-1	アジア太平洋 (シンガポール)
ap-southeast-2	アジア太平洋 (シドニー)
eu-west-1	欧州連合 (アイルランド)
sa-east-1	南米 (サンパウロ)
us-west-1	米国西部 (北カリフォルニア)
us-west-2	米国西部 (オレゴン)

region-url 文字列が表記法に一致しない場合は、バケットは米国標準地域で作成されます。このオプションを省略すると、バケットは米国標準地域で作成されます。

OpsCenter スケジュールが設定されたレポートの設定によるレポート生成の高速化

スケジュールが設定された表形式レポートをエクスポートまたは電子メール送信すると、レポート生成時にデータベースから 1 度に 1000 レコードがフェッチされます。サイズの

大きいデータベース(たとえばデータが 50 万行)の場合、スケジュールが設定されたレポートの生成に数時間かかることがあります。

NetBackup OpsCenter 7.6.0.2 以降では、新しいページサイズ設定を使用してスケジュールが設定されたレポートの生成時間を短縮できます。

ページサイズ設定の使用方法

- 1 次の場所の `report.conf` ファイルを開きます。

Windows の場合 `<INSTALL_PATH>%Symantec%OpsCenter%server%config`

UNIX の場合 `<INSTALL_PATH>/SYMCOpsCenterServer/config`

- 2 `report.export.pageSize` パラメータを追加します。

たとえば、

```
report.export.pageSize = 20000
```

メモ: `report.export.pageSize` パラメータに 50000 を超える値を設定することはお勧めしません。メモリに問題が発生する場合があります。

メモ: この設定は手動でエクスポートしたレポートには適用されません。

- 3 次のコマンドを使ってすべての OpsCenter サーバーサービスを停止します。

Windows の場合 `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%server%bin%opsadmin.bat stop`

UNIX の場合 `<INSTALL_PATH>/SYMCOpsCenterServer/bin/opsadmin.sh stop`

- 4 次のコマンドを使ってすべての OpsCenter サーバーサービスを開始します。

Windows の場合 `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%server%bin%opsadmin.bat start`

UNIX の場合 `<INSTALL_PATH>/SYMCOpsCenterServer/bin/opsadmin.sh start`

代替の場所への復元する新しいメディアサーバーオプション

[NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストア (NetBackup Backup, Archive, and Restore)] ダイアログに新しい復元オプション[メディアサーバー (Media Server)]が組み込まれています。このオプションを使用して、バックアップイメージが含まれるストレージユニットにアクセスするメディアサーバーを選択できます。このような環境の例として複数のメディアサーバーで構成するメディアサーバー重複排除プール (MSDP) があります。

メモ: バックアップイメージを含むストレージユニットが複数のメディアサーバーで共有されていない場合は、このオプションは灰色で表示されます。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.6.0.2 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup のマニュアルについての注意事項](#)
- [NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 7.6.0.2 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはシマンテック社のサポート Web サイトのどれにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

NetBackup 7.6.0.2 のメンテナンスリリースは 7.6 リリースに基づいています。したがって、7.6 のメンテナンスラインで対処されていない NetBackup 7.6 の操作上の注意事項と既知の問題の多くは、バージョン 7.6.0.2 にも引き続き該当する可能性があります。シマンテック社は、操作上必要な情報を確実に得るために、バージョン 7.6.0.2 に加えてバージョン 7.6 の『NetBackup リリースノート』も確認することをお勧めします。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、シマンテック社のサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

p.51 の「NetBackup の関連マニュアルについて」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

p.36 の「NetBackup のリリース形式とバージョン番号について」を参照してください。

AIX に必要な追加手順

NetBackup 7.5 または NetBackup 7.6 のインストールまたはアップグレードを行うと、一部の AIX バージョンでの応答が停止する場合があります。この問題は、AIX オペレーティングシステムの `vswprintf` の変更が原因です。この変更により MSDP パッケージに付属する `libACE` コンポーネントで未定義の動作が中断します。この問題は次のバージョンで見つかっています。

- AIX 6.1 TL9
- AIX 7.1 TL3

詳細情報が利用可能です。

<http://www.symantec.com/docs/TECH214505>

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、

NetBackup 7.6.0.2 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

自動バックアップに関するバックアップスクリプトのパスフィールドは選択できません

バックアップポリシーの構成ウィザードにある MS-SQL ポリシーのバックアップ形式で自動バックアップを選択した場合、バックアップスクリプトのパスを指定するフィールドが有効になりません。この問題は NetBackup-Java 管理コンソールのみ影響します。

この問題の詳細と回避策については、Symantec のサポート Web サイトで次の Tech Note を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH222312>

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

サポートメモ

- NetBackup 7.6.0.2 Windows x86-32 クライアントを BMR の物理から仮想 (P2V) への変換での仮想インスタンスコンバーターとして使うことができません。NetBackup 7.6.0.2 では、Windows x86-32 ビットプラットフォームをサポートしない VMware VDDK 5.5 ライブラリが使われることに注意してください。
- BMR は、Windows 8/Server 2012 の一連のリリース向けの耐性があるファイルシステム (ReFS) を完全にサポートしていません。

Windows 8/Server 2012 の場合、ReFS フォーマット化されたクライアントボリュームは、リカバリされたデータを含む NTFS フォーマット化されたボリュームとしてリストアされます。リストア準備処理時に次のメッセージが表示されます。

```
The configuration contains volume(s) with ReFS file system.
```

メモ: ReFS フォーマット化されたクライアントボリュームは、リカバリされたデータを含む NTFS フォーマット化されたボリュームとしてリストアされます。

- レガシーのリストアは Windows 8/Server 2012 以降ではサポートされません。

EFI ブートシステムで Windows クライアントを復元した後に追加の手順が必要になる

EFI ブートシステムを使用した Windows クライアントの復元は、現在のところ Fast Restore SRT オプション使用時のみサポートされ、レガシー復元オプションではサポートされません。ただし、BMR クライアントのリカバリ時に Fast Restore SRT を使用して EFI ブートシステムを復元するには、一時的にブートマネージャを BIOS に変更する必要があります。最初のブート時のリカバリプロセスの最後で、ブートマネージャを UEFI モードに戻します。

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup には、Oracle、SQL、Exchange といったさまざまなデータベースやアプリケーション技術を保護するためのいくつかの方法が用意されています。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 のデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for Oracle の操作上の注意事項

NetBackup は、Oracle Recovery Manager (RMAN) のデータベースのバックアップ/リカバリ機能と NetBackup のバックアップ/リカバリ管理機能を統合します。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 の NetBackup for Oracle に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

サポートメモ

- Oracle Recovery Manager (RMAN) を使わないスクリプトベースの Block-Level Incremental (BLI) バックアップは Oracle 12c ではサポートされません。

NetBackup のデバッグログファイルが Windows 上の Oracle 12c で作成されません

この状況は、Windows 上の Oracle 12c のバックアップおよびリストジョブの実行時に発生することがあります。この場合、デバッグログファイルが dbclient および bpdbsbora フォルダに作成されません。

Oracle 12c リリースでは、Oracle ユーザーは Windows のビルトインアカウント (LocalSystem または LocalService) または標準の Windows ユーザーアカウントになります。この問題は、標準の (管理者以外の) Windows ユーザーアカウントのセキュリティ権限の設定が原因で発生します。

標準の (管理者以外の) Windows ユーザーアカウントが使われている場合、Oracle ユーザーには dbclient および bpdbsbora フォルダに書き込む適切な権限がありません。

この問題を回避するには、dbclient および bpdbsbora フォルダに関する Windows のセキュリティ権限を変更して、Oracle ユーザーに Full control 権限を付与します。

詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH52446>

NetBackup SAN Client を使って Windows 上の Oracle を保護するには、Oracle ユーザーに管理者権限が設定されている必要があります

Oracle Database 12c リリース 1 (12.1) から、Windows 上の Oracle データベースで Oracle ホームユーザーの利用がサポートされるようになりました。Oracle ホームユーザーは Oracle データベースのインストール時に指定され、Oracle ホームの Windows サービスの実行に使われます。Windows サービスの実行に使われる Oracle ホームユーザーは、Linux 上の Oracle データベースの Oracle ユーザーに類似しています。

詳しくは、次の場所にある Oracle マニュアルの「Windows 上での Oracle ホームユーザーのサポート (Supporting Oracle Home User on Windows)」を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E16655_01/win.121/e10714/oh_usr.htm

NetBackup SAN Client を使う場合、Oracle データベースのインストール時には必ず [Windows ビルトインアカウントの利用 (Use Windows Built-in Account)] を選択してください。このように選択することで、Oracle ホームの Windows サービスが LocalSystem または LocalService として実行されます。

Oracle データベースのアップグレードによって、NetBackup によって保存されるインスタンス情報が無効になります

Oracle データベースのアップグレードによって、アップグレードされたデータベースのインスタンス情報が無効になります。このインスタンスが 1 つ以上の現在の NetBackup for Oracle Intelligent Policies に関連付けられている場合、ランタイムエラーが発生します。この問題は、Oracle データベースが新しいバージョンにアップグレードされるときに発生します。新しいバージョンには、異なる ORACLE_HOME、ORACLE_SID、または Oracle ユーザーが設定されている可能性があります。これらの値のいずれかが変更された場合、NetBackup インスタンスリポジトリ内および現在の Oracle Intelligent Policies 内にある既存のインスタンス情報は無効になります。検出サービス (nbdisco) によって、クライアントのポーリングが再び実行されると、データベースは新しいインスタンスとして検出されます。その結果、新しいインスタンスを古いインスタンスに関連付ける方法がなくなります。この問題はバージョン固有のものではなく、次の有効な Oracle アップグレードパスのそれぞれに該当します。

- Oracle 10 からバージョン 11
- Oracle 10 からバージョン 12

■ Oracle 11 からバージョン 12

有効な Oracle アップグレードパスの詳細は、Oracle サポート Web サイトにある次のマニュアルを確認してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/database/upgrade/upgrading-oracle-database-wp-12c-1896123.pdf>

回避策: 既存の Oracle データベースがアップグレードされ、ORACLE_HOME、ORACLE_SID、または Oracle ユーザーが修正される場合は、インスタンスリポジトリ内の既存のインスタンスを削除します。既存のインスタンスが削除されたら、インスタンスリポジトリを新しいインスタンス情報で更新します。ポリシーは必ず新しく検出されたインスタンスで更新する必要があります。

NetBackup のマニュアルについての注意事項

シマンテック社は、NetBackup の各コンポーネントのインストールや管理などを説明する技術マニュアルの完全なセットを提供します。マニュアルセットは、ガイド (印刷または PDF)、オンライントピック、NetBackup ソフトウェア組み込みヘルプシステムなどの形式で公開されます。新しいマニュアルは、リリース形式に応じて、各リリースで公開されます。このトピックでは、特定の NetBackup マニュアルに関する前回公開時以降の修正事項およびその他の注意事項について説明します。

p.36 の「NetBackup のリリース形式とバージョン番号について」を参照してください。

p.51 の「NetBackup の関連マニュアルについて」を参照してください。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の注意事項

この項では、最新バージョンのマニュアルの『NetBackup コマンドリファレンスガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

nbstl コマンドに関する例が不正確

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の nbstl コマンドの「例」の項にある例 3 に次の不正確なコマンドがあります。

```
# nbstl LCPolicy -dc Gold -uf 0,1,2 -residence DskStU,TpSTU, __NA__  
-pool NetBackup,DLP_Pool1, __NA__ -managed 0,0,0 -rel 6,12,1
```

このコマンドでは -add オプションを含める必要があり、-rel の代わりに -rl を含める必要があります。訂正されたコマンドは次のとおりです。

```
# nbstl LCPolicy -add -dc Gold -uf 0,1,2 -residence  
DskStU,TpSTU, __NA__ -pool NetBackup,DLP_Pool1, __NA__ -managed 0,0,0  
-rl 6,12,1
```

『Symantec NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の注意事項

このトピックには、ドキュメントの修正とドキュメントの最新版にある『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の注意事項と関連した注意事項が含まれています。

Veritas Cluster Server をサポートするという誤った記述

『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の NetBackup 7.6 および 7.5 バージョンでは、「クラスタ構成における SQL バックエンドサーバーのインストールの要件」というトピック中で、Veritas Cluster Server (VCS) をサポートしていると誤って記述されています。

NetBackup 7.5 では、SharePoint エージェントは Veritas Cluster Server でクラスタ化された SQL Server のバックエンドを含む SharePoint ファームの保護をサポートしていません。

VCS を SharePoint エージェントでサポートするのは NetBackup 7.1.0.4 以前のバージョンです。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH216356>

『NetBackup for VMware 管理者ガイド』の注意事項

この項では、マニュアルの最新バージョンの『NetBackup for VMware 管理者ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

SAN 接続の推奨事項に関する不正確な記述

バージョン 7.6 用『NetBackup for VMware 管理者ガイド』のトピック「VMware 機能のインスタントリカバリにおけるパフォーマンスに関する推奨事項」に SAN 接続に関する次の不正確な記述が含まれています。

- NetBackup メディアサーバーとその ESX ホストのディスクストレージユニットからの SAN 接続

この箇条書きの記述は次のように修正する必要があります。

- NetBackup メディアサーバーからディスクストレージユニットへの SAN 接続

『NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド』の注意事項

この項では、マニュアルの最新バージョンの『NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

Microsoft クラスタサービスに関する Web サービスの有効化で抜けている手順

vCenter 用 NetBackup プラグインの有効化において、『VMware vCenter 用 NetBackup プラグインガイド』では Microsoft Cluster Service (MSCS) に関する手順が抜けています。NetBackup マスターサーバーが MSCS クラスタにある場合は、ドメインユーザーの設定を検証する必要があります。

更新済みの手順について詳しくは、シマンテック社の次のオンライントピックを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/HOWTO92103>

NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項

NetBackup OpsCenter は Web ベースのソフトウェアアプリケーションで、これを使用すると組織のデータ保護環境での表示が可能になります。NetBackup OpsCenter を使用すると、包括的なレポートを生成し、バックアップ操作の効果を追跡できます。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 の OpsCenter に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

メモ: OpsCenter は NetBackup Operations Manager (NOM) と Veritas Backup Reporter (VBR) を 1 つにまとめたもので、Symantec NetBackup OpsCenter と Symantec NetBackup OpsCenter の 2 つのバージョンで利用可能です。NetBackup 7.0 以降、NOM は OpsCenter に置き換えられています。現在の NetBackup 環境に NOM または VBR が含まれている場合は、OpsCenter の新しいバージョンにアップグレードする前に、まず OpsCenter 7.0 または 7.1 にアップグレードする必要があります。

OpsCenter のアップグレードについて詳しくは、『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題

OpsCenter データベースをホストしていない Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder を使用する場合は、データベース接続の問題が発生する場合があります。

この問題は次のいずれかのシナリオで発生します。

- OpsCenter サーバーのネットワーク名とホスト名が一致しないとき
- OpsCenter サーバーホストとリモート View Builder ホストが別々のドメインにあるとき

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. OpsCenter サーバーのホスト名を View Builder の `etc/hosts` ファイルに追加します。
2. View Builder のホスト名を OpsCenter サーバーの `etc/hosts` ファイルに追加します。

メモ: ホストの短縮名および完全修飾ドメイン名 (FQDN) を `etc/hosts` ファイルに追加します。

NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項

レプリケーションディレクタは NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットおよびスナップショットレプリケーションの実装であり、スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。レプリケーションディレクタは、メディアサーバーの OpenStorage プラグインを使用して、ディスクアレイと通信し (ストレージサーバーを介して)、データ移動を要求します。OpenStorage パートナーは、NetBackup とディスクアレイ間の通信を可能にするソフトウェアプラグインもホストします。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 のレプリケーションディレクタとその関連プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetApp Plug-in for Symantec NetBackup の操作上の注意事項

NetApp Plug-in for Symantec NetBackup (NBUPugin) は、NetBackup と NetApp ディスクアレイ間の通信を可能にするソフトウェアプラグインです。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 の NBUPugin に関する NetBackup 関連の操作上の注意事項と既知の問題について説明します。NBUPugin について詳しくは、NetApp サポート Web サイトの『[NetApp Plug-in for Symantec NetBackup リリースノート](#)』に記載されています。

ファイラーに 270 より多い qtrees が存在する場合、NBUPugin がクラッシュする場合があります

NetApp Plug-in for Symantec NetBackup (NBUPugin) 1.1 より前のバージョンでは、NetBackup ポリシーのバックアップ対象リストで大量の qtrees を使用すると問題が発生する場合があります。ファイラーに 270 より多い qtrees が存在する場合、NBUPugin がクラッシュする場合があります。

この問題を解決するには、NetApp サポート Web サイトから入手可能な最新バージョンの NBUPugin にアップグレードしてください。

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 7.6.0.2 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

サポートメモ

- VMware VDDK 5.5 は SATA 仮想ディスクでのホットアド転送モードをサポートしていません。
SATA 仮想ディスクをバックアップするには、(ホットアド以外の)別の転送モードを使ってください。

メモ: SATA ディスクが SCSI、iSCSI、または FC 接続ストレージアレイにある場合は、ホットアドがサポートされます。

この問題について詳しくは、次の場所にある『VMware VDDK 5.5 リリースノート』を参照してください。

<https://www.vmware.com/support/developer/vddk/vddk-550-releasenotes.html>

- VMware vSphere 5.5 では、2TB より大きいディスクのスナップショットには省スペースの仮想ディスク (SEsparse) が使われます。ただし、VDDK 5.5 では、ホストベースのファイル転送での SEsparse ディスクのバックアップまたはリストアはサポートされません。

メモ: VMware のレプリケーションディレクタは、ホストベースのファイル転送を要求します。このため、VMware のレプリケーションディレクタは、2 TB より大きい vmdk ファイルには対応できません。

2 TB より大きい vmdk ファイルをバックアップするには、レプリケーションディレクタを含まない NetBackup for VMware を使ってください。

この問題について詳しくは、次の場所にある『VMware VDDK 5.5 リリースノート』を参照してください。

<https://www.vmware.com/support/developer/vddk/vddk-550-releasenotes.html>

- VMware vSphere 5.5 は、2 TB より大きい vmdk ファイルのサポートを追加します。これらのファイルをリストアする場合は、次の種類のデータストアを選択してください: VMFS-5、または場合によっては NFSv3 (NFSv3 のサポートは NAS ベンダーによって異なります)。種類が VMFS-3 または NFSv2 のデータストアは選択しないでください。
この問題について詳しくは、次の場所にある『VMware VDDK 5.5 リリースノート』を参照してください。

<https://www.vmware.com/support/developer/vddk/vddk-550-releasenotes.html>

[発行の有効化 (Enable Publishing)] カタログプロパティによって vApp テンプレートのリストアが妨げられます

vCloud Director 5.5 の問題によって、NetBackup の [テンプレートとして vApp をキャプチャする (Capture vApp as a template)] オプションを使ったとき vApp テンプレートのリストアが妨げられます。vCloud ディレクタの [発行の有効化 (Enable Publishing)] オプションが vApp テンプレートを含むカタログ用に設定されると、リストアはステータスコード 1 で失敗します。(vCloud ディレクタのユーザーインターフェースでは、[発行の有効化 (Enable Publishing)] は [外部発行 (External Publishing)] タブの [カタログプロパティ (Catalog Properties)] 下にあります。)

回避策として、次のことを実行します: リストアジョブがステータス 1 で終了したら、vCloud ディレクタのインターフェースで vApp テンプレートを右クリックして、[カタログに追加 (Add to Catalog)] を選択します。このオプションは NetBackup の [テンプレートとして vApp をキャプチャする (Capture vApp as a template)] オプションと同じです。

hotadd トランスポートモードを使った 2 TB 以上の vmdk ファイルのバックアップに関する問題

VMware の VDDK 5.5 での問題により、hotadd トランスポートモードを使って 2 TB 以上の vmdk ファイルをバックアップできません。バックアップは失敗しますが、ジョブの状態には正常に完了したことが報告される場合があります。

2 TB 以上の vmdk ファイルをバックアップするには、別のトランスポートモード (hotadd 以外) を使ってください。

次の VMware 技術情報には、この問題に関する詳細な情報が含まれています:

<http://kb.vmware.com/kb/2068424>

ブート設定を変更すると VM の電源をオンにできないことがある

VM のデフォルトブート設定が変更されている場合は、復元した VM の電源を正しくオンにできない場合があります。詳細と回避策については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/HOWTO95250>

vCenter プラグインが正しく機能するためのポートの選択

vCenter プラグインをインストールするとき、vCenter Server および vCenter プラグイン Web サーバーのポート番号を指定するように求められます。ほとんどの場合、デフォルトのポート(vCenter Server は 443、vCenter プラグイン Web サーバーは 9445)が利用可能で、プラグインが正しく機能できるようになります。別のサービスで必要となるポートを指定すると、プラグインは正しく機能しないことがあります。たとえば、セキュアシェル (SSH) ネットワークサービスのデフォルトポートは 22 です。プラグイン Web サーバーのポートに 22 を指定してユーザーがプラグイン仮想アプライアンスで SSH を有効にした場合、競合が発生します。その結果、プラグインが誤作動することがあります。

プラグインのインストール中に、デフォルトのポート番号を承諾するか、他のサービスで必要としない標準外のポートを選択します。

VMware Windows Server 2008 R2 VM のバックアップが状態コード 156 で失敗することがある

Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) のエラーが原因で、VMware Windows Server 2008 R2 VM のバックアップが状態コード 156 (snapshot error encountered) で失敗することがあります。install_path¥NetBackup¥logs¥bpfis ログには次のようなメッセージが含まれていることがあります。

```
12:08:50.920 [20787] <2> onlfi_vfms_logf: INF - VMware_freeze:  
FTL - VMware error received: An error occurred while quiescing the  
virtual machine. See the virtual machine's event log for details.
```

仮想マシンのイベントログには次のメッセージが含まれていることがあります。

```
The guest OS has reported an error during quiescing. The error code  
was: 5 The error message was: 'VssSyncStart' operation failed:  
Unspecified error (0x80004005)
```

この問題を修正し、正常なバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

- 仮想マシンの VMware Tools を最新バージョンに更新します。
- ESX サーバーを最新バージョンに更新します。

この問題について詳しくは、次の VMware ナレッジベースの記事を参照してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2006849

NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項

NetBackup for Hyper-V では、さまざまなバージョンの Windows サーバー上で動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップを提供します。このトピックでは、NetBackup 7.6.0.2 の NetBackup for Hyper-V に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルをリストアする VM ファイルを参照するときにバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースに Hyper-V スナップショットファイルがリストされる場合がある

Windows Server 2012 R2 Hyper-V サーバー上の仮想マシン (VM) の場合、リストアする VM ファイルを参照するときにバックアップ、アーカイブ、リストア (BAR) インターフェースに Hyper-V スナップショットファイルがリストされる場合があります。スナップショットファイルのデータは、アプリケーションとの整合性がなく、リストアするべきでない場合があります。

スナップショットファイルの識別方法とリストアすべきか否かについて詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

www.symantec.com/docs/HOWTO95063

CSV ボリュームを共有する VM のバックアップを成功させるためには、VM は CSV ボリュームのみを使う必要がある

Windows Server 2008 R2 では Hyper-V クラスタ共有ボリューム (CSV) が導入されました。CSV は、クラスタ化された仮想マシンがボリュームを共有できるようにします。

CSV ボリュームを共有する仮想マシンを正常にバックアップするためには、仮想マシンは CSV ボリュームのみを使う必要があります。ローカルディスク (共有 CSV ボリュームでない) が仮想マシンに追加されると、バックアップは状態コード 156 (snapshot error encountered) で失敗します。

CSV ボリュームのみを使うように仮想マシンを再構成し、バックアップを再試行します。

NetBackup のリリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のリリース内容について](#)

NetBackup のリリース内容について

NetBackup の各リリースには、NetBackup の旧バージョンに関わる複数の既知の問題に対する修正が組み込まれます。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。各リリースに組み込まれた顧客関連の修正の一部は、Emergency Engineering Binaries (EEB) としても使用できるようになりました。

NetBackup 7.6.0.2 で修正された既知の問題を示す Etrack および EEB のリストは、&CompanyName Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.43 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- **NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新**

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup の互換性リストにリストされるオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SP (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Symantec 社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 は、NetBackup 7.6.0.2 で必要な OS 更新およびパッチを示しています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 7.6.0.2 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必要な OS パッチ情報は、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトで確認できます。

メモ: OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わるより最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。ここおよび SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると考える必要があります。表 B-1 にリストされているものに優先されるまたはそれらに置き換わる OS 更新、パッチ、またはパッチバンドルは、特に指定されていないかぎりサポートされます。Symantec 社は、個別の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

p.39 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.43 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

表 B-1 NetBackup 7.6.0.2 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
AIX 6.1	AIX 6.1 TL2 SP5 (6100-05-02-1034)	NetBackup では、AIX 6.1 TL5 SP2 (6100-05-02-1034) Maintenance Pack が最低限必要です。(より高いパッチレベルも機能します。) oslevel -s コマンドを使用して、インストールした Maintenance Pack レベルを確認できます。
	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要がある場合があります。
HP-UX	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。
HP-UX IA-64	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	
HP-UX PA-RISC	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
HP-UX 11.11	PHSS_32226	このパッチは LIBCL パッチです。
	PHSS_37516	次の修正を含んでいます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ QXCR1000593919: purifyplus は、PA32 にコアをダンプします。 ■ QXCR1000589142: dld は、aCC アプリケーションが存在している場合は LL_new_descendent_list でクラッシュします。 ■ QXCR1000589142: dld は、aCC アプリケーションが存在している場合は LL_new_descendent_list でクラッシュします。 ■ QXCR1000746161: dlsym() がハングアップします。 ■ QXCR1000593999: dld は、chatr +mem_check 対応 64 ビットの実行可能ファイルのアサートメッセージを生成します。
	PHSS_26946	このパッチは C++ ランタイムコードを正しく動作させるために必要です。
	PHSS_27740	このパッチは libc 累積パッチです。
	PHSS_26560	このパッチはリンカツール累積パッチを含んでいます。
	PHSS_32864	NetBackup クライアントのバックアップを正常に実行するために必要な HP の推奨重要パッチです。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	PHKL_26233	このパッチにより HP-UX 11.11 mmap() で 2 GB から 4 GB の大きなファイルを使用できます。
	PHSS_35379	NetBackup クライアントのバックアップを正常に実行するために必要な HP の推奨重要パッチです。
	PHCO_29029	NetBackup で VxSS を利用するために必要な HP の推奨重要パッチです。
	PHSS_24045	/var/stm/config/tools/monitor/dm_stape.cfg の POLL_INTERVAL に 0 が設定されます。これにより、Event Monitoring System 内で dm_stape 監視が無効になります。Symantec社は、IPR0109 にアップグレードすることをお勧めします。
	PHSS_30970	このパッチは、setuid ビットが設定されているプログラムに問題を発生させる場合があります。Hewlett-Packard 社の IT リソースセンターの Web サイトに、このパッチについての情報があります。 www1.itrc.hp.com
	PHCO_35743	S700_800 11.11 libc の累積パッチ 上のパッチに次のパッチの依存関係があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ PHCO_31923 (重要パッチ): s700_800 11.11 libc の累積ヘッダーファイルパッチ ■ PHKL_34805: 700_800 11.11 JFS3.3 パッチ; mmap
HP-UX 11.23	PHCO_33431	Symantec社は、11.23 を実行しているすべての顧客がこのパッチをインストールすることをお勧めします。HP Itanium は 11.31 に移行したため、これは HP PA-RISC のみに適用されます。
	PHSS_34858	dlopen を正常に実行するために必要な HP の推奨重要パッチです。
	PHKL_31500	特に NetBackup アクセス制御機能 (NBAC) を使って NetBackup を実行する場合に、NetBackup で必要な HP の推奨重要パッチです。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	PHSS_37492	次の修正を含んでいます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ QXCR1000593919: purifyplus は、PA32 にコアをダンプします。 ■ QXCR1000589142: dld は、aCC アプリケーションが存在している場合は LL_new_descendent_list でクラッシュします。 ■ QXCR1000746161: dlSym() がハングアップします。 ■ QXCR1000593999: dld は、chatr +mem_check 対応 64 ビットの実行可能ファイルのアサートメッセージを生成します。
HP-UX 11.31	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル	このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。
SUSE Linux Enterprise Server 10 x64	SuSE Linux Enterprise Server 10 update 2	オペレーティングシステムのバージョンが SUSE Linux Enterprise Server 10 update 2 以上である必要があります。
Solaris 10 SPARC 64 ビット (サーバーとクライアント)	Update 4 (08/07) 以降	サーバーは、Update 4 (08/07) 以降でサポートされます。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	推奨パッチセット - 2011 年 6 月以降	<p>Symantec 社は、2011 年 6 月 (以降) のパッチセットを Oracle のサポート Web サイトからダウンロードすることをお勧めします。</p> <p>https://support.oracle.com</p> <p>このパッチセットには、次の最小限の推奨パッチが含まれています。</p> <p>このパッチセットには、次の最小限の推奨パッチが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 118777-17 (SunOS 5.10: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ) ■ 139555-08 (C++ ライブラリの更新を含むカーネルパッチ) ■ 142394-01 (ICMP (Internet Control Message Protocol) パッチ) ■ 143513-02 (DLADM (Data Link Admin command for Solaris) パッチ) ■ 141562-02 (ARP (Address Resolution Protocol) パッチ) <p>次のパッチは、NXGE カード搭載の Solaris 10 SPARC 用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 142909-17 (SunOS 5.10: nxge パッチ) ■ 143897-03 (Distributed Link Software パッチ) ■ 143135-03 (集約パッチ) ■ 119963-21 (変更要求 ID - 6815915) ■ 139555-08 (変更要求 ID - 6723423)

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
Solaris 10 x86-64	推奨パッチセット - 2011 年 12 月 28 日以降	<p>Symantec社は、2011 年 12 月 28 日 (以降) のパッチセットを Oracle のサポート Web サイトからダウンロードすることをお勧めします。</p> <p>https://support.oracle.com</p> <p>このパッチセットには、次の最小限の推奨パッチが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 118778-15 (SunOS 5.10_x86: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ) ■ 139556-08 (C++ ライブラリの更新を含むカーネルパッチ) ■ 142395-01 (SunOS 5.10_x86: ICMP パッチ) ■ 143514-02 (SunOS 5.10_x86: Data Link Admin command for Solaris パッチ) ■ 147259-02 (SunOS 5.10_x86: 集約パッチ) ■ 142910-17 (NXGE 修正を含めるための SunOS 5.10_x86 カーネルパッチ) ■ 142910-17 (SunOS 5.10_x86: Distributed Link Software パッチ) ■ 143136-03 (SunOS 5.10_x86: 集約パッチ) ■ 139556-08 (変更要求 ID - 6723423) ■ 119964-21 (変更要求 ID - 6815915)
Windows XP x86-32	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows XP x86-64	KB928646	PBX による接続試行のハングアップの Hotfix。
Windows Vista x86-32	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Vista x86-64	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2003 x86-32 (SP1 & SP2)	KB883646	Microsoft Storport の Hotfix。
	KB913648	ボリュームシャドウコピーを実行するために必要な更新を含んでいます。
	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
Windows Server 2003 x86-32 (SP2)	KB971383	TCP/IP プロトコルドライバは切断のイベントをランダムにトリガします。マスターサーバーとメディアサーバーに必要です。
Windows Server 2003 x86-64 (SP1 & SP2)	KB883646	Microsoft Storport の Hotfix。
	KB913648	ボリュームシャドウコピーを実行するために必要な更新を含んでいます。
	KB928646	PBX による接続試行のハングアップの Hotfix。
	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows Server 2003 x86-64 (SP2)	KB971383	TCP/IP プロトコルドライバは切断のイベントをランダムにトリガします。マスターサーバーとメディアサーバーに必要です。
Windows Server 2008 x86-32	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 (SP2)	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善する Hotfix。
Windows Server 2008 R2	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合の Hotfix。
	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状態で I/O パフォーマンスが低下する場合の Hotfix。
	KB983544	レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。
	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善する Hotfix。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のリリース形式とバージョン番号について](#)
- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のリリース形式とバージョン番号について

シマンテック社は、さまざまなレベルで NetBackup のリリースを提供することでお客様のニーズに対応する、というポリシーを順守しています。このトピックでは、各種のリリース形式と、それぞれの形式に関連付けられるバージョン番号付けスキームを定義します。

ソフトウェアおよびアプライアンス製品の NetBackup ファミリーは次のリリース形式とバージョン番号付けスキームを使います。

- メジャーリリースとは、リリースの最初になるものです。このリリース形式には、新機能、拡張機能、プラットフォームのサポート、最新の製品マニュアル一式が含まれます。
- マイナーリリースとはメジャーリリースに続く単一ドットのリリースで、たとえば 2.6 または 7.6 です。このリリース形式には、メジャーリリースと同じ要件の多くが含まれます。より小規模な新機能と拡張機能のセット、新しいプラットフォームのサポート、最新の製品マニュアル一式が含まれます。
- ソフトウェアのリリース更新とは、2.6.1 または 7.6.1 のような二重ドットのリリースです。このリリース形式には、多くの製品修正プログラムとともに、いくつかの新機能と拡張機能が含まれることがあります。新機能や拡張機能に適用されるマニュアルのみが更新され、再発行されます。
- メンテナンスリリースとは、2.6.0.2 または 7.6.0.2 のような三重ドットのリリースです。このリリース形式は主に、メジャーリリース、マイナーリリース、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発されたいくつかの修正プログラムで構成されます。また、

新機能、機能拡張、新しいプラットフォームのサポートが若干含まれることもあります。このリリース形式で提供されるマニュアルは **Readme** のテキストファイルと『**NetBackup** リリースノート』の新しいバージョンのみです。これらのファイルは両方とも **Symantec** サポート **Web** サイトからオンライン経由のみで入手できます。

メモ: このトピックでは、**NetBackup** のバージョン **2.6.1** と **7.6.1** を例として使います。**NetBackup** のこれらのバージョンは、このトピックの公開時には存在しません。

NetBackup のバージョン間の互換性について

メモ: このトピックの説明はシマンテック社の標準の **EOL (End of Life)** ポリシーや **EOSL (End of Support Life)** ポリシーより優先されるものではありません。**NetBackup** のバージョンが **EOSL (サポート終了)** に達した場合、その製品バージョンのリリースはすべて、いかなる構成においてもサポートされなくなります。

シマンテック社は **NetBackup** の **EOSL** 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

<http://www.symantec.com/docs/TECH74757>

マスターサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる **NetBackup** を実行可能です。この旧バージョンのサポートによって、**NetBackup** サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

メジャーバージョン間の互換性のために、**NetBackup** の最新の利用可能なリリースは、1 つ前までのメジャーバージョンの **NetBackup** のリリースを実行するメディアサーバーやクライアントと互換性があります。ただし、この互換性は、1 つ前のメジャーバージョンが **EOSL** に達すると、あらゆる構成においてサポートされなくなります。

NetBackup 環境内のマスターサーバーのバージョンレベルは、同じ環境内のメディアサーバーやクライアントのバージョンレベルと同等以上である必要があります。ただし、**NetBackup** は、クライアントおよびメディアサーバーがマスターサーバーとは異なる三重ドットリリースを実行する環境に柔軟に対応します。たとえば、マスターサーバーで稼働中のバージョンが **7.6.0.2** である環境の、メディアサーバーまたはクライアントのバージョンを **7.6. GA** にアップグレードすることが可能です。シマンテック社は、**NetBackup** の全体の環境を最新のメンテナンス (三重ドット) リリースで最新に保つことをお勧めします。

p.36 の「**NetBackup** のリリース形式とバージョン番号について」を参照してください。

NetBackup では、メディアサーバーやクライアントが、親サーバーのバージョンより上のマイナーリリースバージョンやソフトウェアのリリース更新バージョンを実行するシナリオをサポートしません。たとえば、

- マスターサーバーがバージョン 7.6 の場合、メディアサーバーとクライアントは 7.6 より大きい単一ドットのバージョンレベル (7.7 など) にはなりません。
- マスターサーバーがバージョン 7.6 の場合、メディアサーバーとクライアントは 7.6 より大きい二重ドットのバージョンレベル (7.6.1. など) にはなりません。
- マスターサーバーがバージョン 7.6.1 の場合、メディアサーバーとクライアントは 7.6.1 より大きい二重ドットのバージョンレベル (7.6.2 など) にはなりません。

メモ: このトピックでは、NetBackup のバージョン 7.6.1、7.6.1.1、7.6.2、および 7.7 を例として使います。NetBackup のこれらのバージョンは、このトピックの公開時には存在しません。

表 C-1 に、現在の NetBackup の製品ラインでサポートされるさまざまな互換方式を示します。

表 C-1 NetBackup 製品ラインのリリース互換性

NetBackup マスターサーバー	NetBackup メディアサーバー	NetBackup クライアント
7.6	7.0	7.0
7.6	7.0.1	7.0、7.0.1
7.6	7.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6	7.1.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6	7.5	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6	7.5.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6	7.6	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6	7.6.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x

メモ: NetBackup 6.x 製品ラインのサポートは、2012 年 10 月に終了しました。

p.41 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

その他の NetBackup の混在バージョンの互換性に関する注意事項

次のリストには、考慮する必要がある、互換性に関する追加の詳細情報が示されています。

- NetBackup カタログはマスターサーバー上に存在します。したがって、マスターサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディアサーバーが含まれている場合は、マスターサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。
- 個々のシステム上のすべての NetBackup コンポーネント (サーバー、クライアントおよびコンソール) は、同じバージョンである必要があります。
- 古いバージョンの NetBackup で作成されたバックアップイメージは、新しいバージョンを使用してリカバリできます。

NetBackup の互換性について詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

- NetBackup アプライアンスとの NetBackup の互換性:
<http://www.symantec.com/docs/TECH136970>
- NetBackup バージョンの互換性:
<http://www.symantec.com/docs/TECH29677>

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.43 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、シマンテック社はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にあるシマンテック社のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

以下の項目では、利用可能な互換性リストのそれぞれについて説明します。

- 『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x OS Software Compatibility List』
このリストには、NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーとの互換性を得るために必要なオペレーティングシステム (OS) のレベルとバージョンに関する情報が含まれています。NetBackup クライアントとの互換性を得るために必要な OS の

レベルおよびバージョンについても示しています。記載されているオペレーティングシステムの先行モデルと後継モデルは、そのリリースと記載されているオペレーティングシステムにバイナリ互換性があるかぎり、問題なく動作します。

このリストでは次のような NetBackup Enterprise 機能の互換性情報を示します。

- NetBackup Enterprise のサーバーとクライアント
- Bare Metal Restore (BMR)
- NetBackup アクセス制御 (NBAC)
- ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP)
- NetBackup OpsCenter
- NetBackup の SAN メディアサーバーと SAN クライアント
- ファイバートランスポート (FT) メディアサーバー
- NetBackup メディアサーバー重複排除オプション
- ファイルシステムの互換性
- NetBackup 仮想システムの互換性

- NetBackup Media Server Encryption Option (MSEO)

プラットフォームまたは OS のバージョンに対して NetBackup で互換性を得るには、プラットフォームのベンダーがその製品をサポートする必要があります。NetBackup によって保持されているプラットフォーム互換性リストは、ベンダーがプラットフォームまたは OS のバージョンを追加または中止した場合に変更されることがあります。

- 『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List』
このリストには、互換性のあるドライブ、ライブラリ、仮想テープデバイス、ロボット形式、ファイバーチャネル HBA、スイッチ、ルーター、ブリッジ、iSCSI 構成および暗号化デバイスに関する情報が含まれています。その他の互換性の情報は次のとおりです。
 - NetBackup アプライアンス
 - AdvancedDisk アレイ
 - OpenStorage (OST) ソリューション
 - テープドライブ
 - ファイバートランスポートメディアサーバーのホストバスアダプタ (HBA)
 - 仮想テープライブラリ (VTL)
 - ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) デバイス
 - テープライブラリ
 - 暗号化およびセキュリティソリューション

- 『NetBackup 7.x Database and Application Agent Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるデータベースエージェントおよびアプリケーションエージェントの最新の互換性情報が含まれています。
- 『NetBackup 7.x Snapshot Client Compatibility List』
このリストには、アレイ、エージェント、オペレーティングシステム、VSS プロバイダでソートされた最新サーバーとクライアントのスナップショットの互換性情報が含まれます。
- 『NetBackup 7.x Cluster Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるクラスタの種類とバージョンの最新の互換性情報が含まれています。
- 『Statement of support for the importing of Backup Exec images in NetBackup 7.x using the Backup Exec Tape Reader』
- 『Support for NetBackup 7.x in virtual environments』
このリストには仮想環境での NetBackup の最新の互換性情報が含まれます。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Symantec社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Symantec社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

Symantec社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Symantec社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Symantec社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、メジャーリリースの前に最低 6 か月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.symantec.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.symantec.com/eosl/show_matrix

p.43 の「Symantec Operations Readiness Tools について」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 7.6.0.2 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.8 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

p.39 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Symantec Operations Readiness Tools](#) について
- SORT の新規インストールのための推奨手順
- SORT のアップグレードのための推奨手順

Symantec Operations Readiness Tools について

Symantec Operations Readiness Tools (SORT) は、シマンテックエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor

このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な **Hotfix** が含まれているかどうかを調べることができます。

- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムとシマンテックエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)**
このツールを使用すると、シマンテック社が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を取得できます。さらに、シマンテック社が置き換えを行わずに廃止する項目についても情報を提供します。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、他社製品の統合、シマンテック製品の統合、アプリケーション、データベースおよび **OS** のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- インデックスでトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

新規の **NetBackup** ユーザーは、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 D-1

手順	詳細
SORT Web ページに SymAccount プロファイルを作成します。	p.45 の「 SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.45 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.46 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.47 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。

SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 右上の角で、[登録 (Register)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけます。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。**NetBackup** では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.symantec.com/>

2 [SORT]>[NetBackup の SORT (SORT for NetBackup)]を選択します。

3 [データコレクタを使ったカスタムレポート (Custom Reports Using Data Collectors)]で、[データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。ツールは管理者または root アカウントで開始することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.symantec.com/>
- 2 [SORT]>[NetBackup の SORT (SORT for NetBackup)]を選択します。
- 3 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。
- 4 [データコレクタを使ったカスタムレポート (Custom Reports Using Data Collectors)]で、[データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 5 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。

- 6 `./sortdc` を実行します。

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。
- 7 要求されたら、**Enter** キーを押して続行します。
- 8 メインメニューで[**NetBackup ファミリー (NetBackup Family)**]を選択します。
- 9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。
- 10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、**NetBackup** を指定します。
- 12 インストールする **NetBackup** のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には **SORT Web** サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。
- 14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。シマンテック社はフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

現在の **NetBackup** ユーザーは、**SORT** の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに **NetBackup** を使っているユーザーにとって **SORT** の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の **SORT** 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 D-2

手順	詳細
SORT Web ページに SymAccount プロファイルを作成します。	p.45 の「SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.46 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.47 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.49 の「今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.49 の「Hotfix と EEB の情報を確認する方法」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけます。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]をクリックします。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけます。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

- 4 [検索 (Search)]をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

他の NetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)
- [NetBackup リリースノートについて](#)
- [NetBackup 管理者ガイドについて](#)
- [NetBackup のインストールマニュアルについて](#)
- [NetBackup の構成マニュアルについて](#)
- [NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて](#)
- [その他の NetBackup のマニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

Symantec は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。これらのドキュメントはリリース形式にしたがって NetBackup の新しいバージョン向けに公開されています。

p.36 の「[NetBackup のリリース形式とバージョン番号について](#)」を参照してください。

特に指定のないかぎり、NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードできます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

メモ: Symantec は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup リリースノートについて

NetBackup ソフトウェアには、次のリリースノートドキュメントが公開されています。

- **NetBackup リリースノート**
このマニュアルには、UNIX と Windows のプラットフォーム両方に関する NetBackup の今回のリリースについての多数のさまざまな情報が含まれています。この情報には、新しい機能、プラットフォームの互換性の変更、パッチの必要条件、マニュアルの修正、既知の問題が含まれていますが、これらに限定されるものではありません。NetBackup のマニュアルやオンラインヘルプの他の場所で見つからない可能性があるある操作上の注意事項も含まれています。
- **NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド**
次のドキュメントには、すでに特定、解決され、NetBackup ユーザーが Emergency Engineering Binary (EEB) の形式で利用可能になった既知の問題の一部が示されています。ここには、指定のリリースで修正されているが、EEB では修正されなかった可能性のある問題の一部が示されています。

NetBackup 管理者ガイドについて

次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**
このマニュアルでは、UNIX または Windows サーバー上で NetBackup を構成して管理する方法について説明します。このマニュアルでは、NetBackup インターフェースについてと、ホスト、ストレージデバイスとメディア、ストレージライフサイクルポリシー (SLP)、バックアップ、レプリケーション、監視と報告を構成する方法について説明します。
- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 2**
このマニュアルでは、**ProductName;** のための追加の構成とインターフェースオプションについて説明します。このマニュアルには、**ProductName;** ライセンスについての参照項目と情報も含まれています。

NetBackup オプションの管理について

NetBackup オプションの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup AdvancedDisk ストレージソリューションガイド**

このガイドでは、**NetBackup AdvancedDisk** ストレージオプションを構成、管理、トラブルシューティングする方法について説明します。**NetBackup** に公開されているディスクストレージをバックアップ用のファイルシステムとして使う方法について説明します。

- **NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド**
このガイドでは、サーバーのリカバリ処理を自動化して簡素化するために **NetBackup BMR (Bare Metal Restore)** ブートサーバーとクライアントのインストール、構成、管理を行う方法について説明します。
- **NetBackup クラウド管理者ガイド**
このガイドでは、**Symantec OpenStorage** を使ってクラウドの **STaaS (Storage as a Service)** ベンダーからデータのバックアップとリストアを行うために **NetBackup** を構成し、管理する方法について説明します。
- **NetBackup 重複排除ガイド**
このガイドでは、**NetBackup** メディアサーバー重複排除オプションを使って **NetBackup** 環境のデータ重複排除を計画、構成、移行、監視、管理する方法について説明します。
- **ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド**
このガイドでは、**NetBackup** でバックアップ用にインテリジェントディスクアプライアンスを構成し、使用する方法について説明します。
- **Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド**
このガイドでは、**VMware ESX** サーバーで動作する **VMware** 仮想マシンのオフホストバックアップのような機能を実行するために **NetBackup** を構成する方法について説明します。
- **NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド**
このガイドでは、仮想マシンのバックアップを監視して仮想マシンをリストアするために **NetBackup vCenter** プラグインをインストールし、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**
このガイドでは、**Windows Hyper-V** サーバーで動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップポリシーを構成して管理する方法について説明します。
- 『**NetBackup for NDMP 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux**』
このガイドでは、**NAS (Network Attached Storage)** システムのバックアップとリストアを開始し、制御するために **NetBackup for NDMP (Network Data Management Protocol)** をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド**
このガイドでは、ファイバートランスポート方式を使ってクライアントバックアップを高速化するために **NetBackup SAN** クライアントの機能を設定、構成、管理する方法について説明します。

- **NetBackup Search 管理者ガイド**
このガイドでは、バックアップのインデックス付け、クエリーの編集と保存、複数のドメイン全体の検索、NetBackup OpsCenter での検索処理を行うために NetBackup Search をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **Symantec NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド**
このガイドでは、VMware、Hyper-V、Replication Director との統合などのさまざまなスナップショットベース機能を有効にするために NetBackup Snapshot Client をインストール、構成、使用方法について説明します。
- 『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』
このガイドでは、NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットとスナップショットレプリケーションの実装方法について説明します。スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。
- **Symantec NetBackup Vault 管理者ガイド**
このガイドでは、オフサイトメディアストレージのためにバックアップイメージの選択と複製を自動化するように NetBackup Vault をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **Symantec NetBackup Vault 操作ガイド**
このガイドでは、NetBackup Vault を使って 2 つの主要な作業分野 (管理と操作) の一部としてメディアを Vault 処理する方法について説明します。説明する作業には、オフサイトにテープを送付し、サイトでテープを受け取り、オフサイトメディアと Vault ジョブでレポートを実行する手順が含まれます。
- **Symantec NetBackup OpsCenter 管理者ガイド**
このマニュアルでは、NetBackup OpsCenter ユーザーインターフェースを使って NetBackup とそのエージェントとオプションについてのレポート、監視、警告を提供する方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter レポートガイド**
このガイドでは、NetBackup OpsCenter を使って包括的なビジネスレベルのレポートを生成して使用し、データバックアップ操作やアーカイブ操作の有効性をトラッキングする方法について説明します。

NetBackup データベースエージェントの管理について

NetBackup データベースエージェントの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup for DB2 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup for DB2 データベースエージェントをインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド**

このガイドでは、Symantec Enterprise Vault の構成情報とアーカイブデータを保護するために NetBackup for Enterprise Vault Agent をインストール、構成、使用方法について説明します。

- **NetBackup for Informix 管理者ガイド**
このガイドでは、UNIX 版 NetBackup クライアント上で Informix データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Informix エージェントをインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアントで Lotus Notes データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Lotus Notes エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- 『Symantec NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』
このガイドでは、Microsoft Exchange Server のオンラインバックアップとリストアを行うために NetBackup for Exchange Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド**
このガイドでは、Microsoft SQL Server データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Microsoft SQL Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- 『Symantec NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』
このガイドでは、Windows 版 NetBackup クライアント上の SharePoint データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SharePoint Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Oracle 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Oracle データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Oracle エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for SAP 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアント上の SAP データベースと SAP HANA データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SAP エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Sybase 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Sybase データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Sybase エージェントを構成し、使用方法について説明します。

NetBackup のインストールマニュアルについて

次のインストールマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup アップグレードガイド**
このマニュアルは、NetBackup ソフトウェアのアップグレードの計画と実施を支援します。このマニュアルは最新情報を提供するために定期的に更新されます。
- **NetBackup インストールガイド**
このマニュアルでは、UNIX や Windows のプラットフォームに NetBackup サーバー、クライアント、管理ソフトウェアをインストールする方法について説明します。
- **NetBackup LiveUpdate ガイド**
このマニュアルでは、環境内の NetBackup ソフトウェアリリースの配布に関するポリシーに基づいた方法を提供するための NetBackup LiveUpdate サーバーを設定する方法を説明します。

NetBackup の構成マニュアルについて

NetBackup オプションの次の構成ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup デバイス構成ガイド**
このガイドでは、NetBackup サーバー用に使うストレージデバイスホストのオペレーティングシステムを設定し、構成する方法について説明します。

NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて

次のトラブルシューティングガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup トラブルシューティングガイド**
このガイドは、一般的なトラブルシューティングに関する情報を提供し、NetBackup 製品と機能のために使えるさまざまなトラブルシューティング方法を説明します。
- **NetBackup 状態コードリファレンスガイド**
このガイドには、NetBackup、Media Manager、デバイス構成、デバイス管理、ロボットエラーの状態コードの完全なリストが記載されています。各状態コードのリストには説明と推奨処置が含まれています。

その他の NetBackup のマニュアルについて

次のマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup コマンドリファレンスガイド**
 このガイドには、**NetBackup** のマニュアルページのコマンドすべてを含む、**UNIX** システムと **Windows** システムで動作するコマンドについての詳細情報が含まれます。
- **NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド**
 このガイドでは、クラスタで **NetBackup** マスターサーバーをインストールして構成する方法について説明します。
- **NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド**
 このガイドでは高可用性環境で **NetBackup** を使う各種方式を説明し、単一障害点から **NetBackup** を保護するためのガイドラインを示します。
- **NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**
 このガイドでは、アクセス制御、強化された認可と認証、暗号化を使って **NetBackup** を保全する方法について説明します。
- **NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド**
 このガイドでは、マスターサーバーとメディアサーバーのポート、クライアントポート、デフォルトポート、その他の **NetBackup** が使うポートを含む **NetBackup** ネットワークポートの参照情報を示します。
- **NetBackup スタートガイド**
 このガイドでは、**NetBackup** のこのリリースと関連しているインストール前の情報についての概要を提供します。ガイドにはまた、**NetBackup** メディアキット、**NetBackup** 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ、**NetBackup** ライセンスキーの要件の説明も含まれます。
- **NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド**
 このマニュアルでは、**NetBackup** の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。これらの手順には、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブ、リストアする方法も含まれます。
- **NetBackup サードパーティの法的通知**
 この文書には、**Symantec NetBackup** 製品と **OpsCenter** 製品に係するサードパーティプログラム (適用される場合) の所有権通知とサードパーティプログラムのライセンスが含まれます。